

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

イオンスタイル広島府中

(2) 事業所の所在地

広島県安芸郡府中町大須2丁目1-1

(3) 業種

5611:百貨店・総合スーパー

(4) 事業所位置図 別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、令和5年度を基準年度とし、令和6年度から令和8年度迄の3年間とする。

3 計画の基本的な方向

「事業を通じて地域社会へ貢献する」 基本理念のもと 環境や社会に配慮した新たなライフスタイルを 店舗を拠点に発信してゆきます

1、脱炭素の取組み強化

①2030年度までに店舗で排出するCO2を総量で2010年度対比50%削減を目標としてエネルギー使用量の削減に取り組む。

②省エネ・再エネの取組強化

2、廃プラの推進

①全館レジ袋辞退率90%を目標に推進する。

②プラスチック製資材の非プラスチック資材への切り替えを推進する。

3、植樹活動の推進

①新入社員・新人店長植樹の推進

②店舗内設備の計画に基づく点検・整備の実行により。効率的運用を目指す。

③廃棄物のリサイクルを推進して従業員の意識を変える(食用廃油、魚アラ、ペットボトル、不要什器等)

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	令和 5（2023）年度	令和 5（2023）年度
二酸化炭素	2,031	2,031

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス （ HFC PFC SF ₆ NF ₃ ）		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和 5 (2023) 年度)	削減目標		目標年度 (令和 8 (2026) 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	2,031	91.8	1,865	167
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計	2,031	91.8	1,865	167
温室効果ガス みなし排出量		—		167
目標設定の考え方	2023年11月より再生エネルギー100%のサミットエナジー（株）に切替え実施、電気エネルギーのCO2排出量は、2024年度以降は、電気使用による温室効果ガス0の見込み。			

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO₂)、原単位量（kg等）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 () 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	—	—		0.0	—	—	
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置及び目標並びに具体的な取組

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	再生エネルギーへの切替え	電気使用によるCO2排出量0化へ	2023年11月反映分より中国電力（株）よりサミットエナジー（株）へ電気契約変更を実施する。市場連動契約切替え時に再エネ電力の供給を受ける
2	省エネ推進	電気使用量 昨対98.0%目標	活性化に伴う省エネ投資として10月にLED照明を省エネタイプに入替え。高性能ナイトカバー導入
3	使い捨てプラスチック削減	使い捨てプラスチックレジ袋辞退率 第四四半期90%目標	6月と10月にマイバック・マイカーゴの拡販キャンペーンを実施して、使い捨てレジ袋使用を減らす。
4	循環型社会推進	ペットボトル店頭リサイクル回収量 昨対103.0%	トップバリュ飲料ペットボトル100%リサイクルペットボトル使用へ向けて店頭リサイクル回収BOX数量増、目につく場所に変更等強化する。

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	イオンデーの取組み	分別収集する	店舗周辺のゴミ拾い実施（毎月11日前後）一人15分周辺のゴミを拾う。
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法

(1) 推進・点検体制

<推進体制>

弊社は、ISO14001を取得しており、温室効果ガスの継続的抑制に向け 環境負荷軽減を継続的に実施しております。 推進体制は、支社長、事業部長、店長、人事総務課長中心に継続的に指導・チェックをしております。

<点検体制>

電気使用量削減に取り組み、日々・月度・、四半期毎に点検結果を掲示して従業員で共有し、無駄な電気使用を抑制している。

(2) 実施状況の点検・評価

点検・評価は、毎月の点検。四半期毎の点検と目標に対する見直しを実施し評価する。

(3) 計画書等の公表

途中経過・進捗状況を従業員で共有できるように目標プログラム管理表で従業員に「見える化」を実施。毎月の進捗、四半期毎の反省・対策をPDCAサイクルで改善・目標管理する。